

東海北陸厚生局長 殿

開設者名 国立大学法人 富山大学  
代表者氏名 学長 遠藤 俊良  
病院名 国立大学法人 富山大学附

特定病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき平成22年度の業務に関して報告します。

記

- 1. 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2. 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3. 高度の医療に関する研修の実績 

研修医の人数	94人
--------	-----

 (注)前年度の研修医の実績を記入すること
- 4. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 6. 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7. 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	259人	30人	289.0人	看護補助者	31人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	17人	1人	17.6人	理学療法士	3人	臨床検査技師	38人
薬剤師	29人	0人	29.0人	作業療法士	2人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	4人	その他	0人
助産師	32人	0人	0.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	549人	11人	560.2人	臨床工学士	8人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄養士	0人	その他の技術員	25人
歯科衛生士	2人	0人	2.0人	歯科技工士	0人	事務職員	111人
管理栄養士	6人	0人	6.0人	診療放射線技師	30人	その他の職員	0人

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3. 「合計」の欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計数を記入すること。

8. 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たりの平均入院患者数	485.0人	10.0人	495.0人
1日当たりの平均外来患者数	1,233.9人	47.6人	1,281.5人
1日当たりの平均調剤数			1,077.7剤

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。





## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	ナビゲーション用CT撮影	取扱患者数	186人
当該医療技術の概要 脳神経外科領域にて腫瘍・血管位置や危険部位の認識をサポートする目的で行われ、整形外科分野では骨に対す器具位置の表示などに応用される。この基準となるデータをX線CT装置で撮影する。耳鼻咽喉科、口腔外科、美容外科へ適用が拡大している。			
医療技術名	X線CT-Angio撮影	取扱患者数	361人
当該医療技術の概要 造影剤を急速静注したのち、動脈内の造影剤濃度が最も高くなるタイミング(動脈相)でCT撮影し、画像処理することで動脈が明確に抽出され、3D表示も可能となります。脳脈瘤、腹部大動脈瘤の診断に利用されている。			
医療技術名	PET(ポジトロン断層法)	取扱患者数	853人
当該医療技術の概要 陽電子検出を利用したコンピューター断層撮影技術である。X線CTが主に組織の形態を観察するための検査法であるのに対して、生体の機能を観察することに特化した検査法である。腫瘍組織における糖代謝レベルの上昇を検出することにより癌の診断に利用する。			
医療技術名	血管内治療(頭頸部)(脳血管内手術、頸部頸動脈血管形成・ステント術:CAS)	取扱患者数	147人
当該医療技術の概要 血管IVRとは血管内に挿入した医療器具によってX線透視下に行われる治療である。頭頸領域においては脳動脈瘤の塞栓術、脳動静脈瘻の塞栓術、血管拡張術(頸動脈血管形成ステント術)などが実施されている。			
医療技術名	血管内治療(心臓領域)	取扱患者数	215人
当該医療技術の概要 心臓領域では経皮的冠動脈形成術、経皮的肺動脈形成術、心房中隔欠損作成術、経皮的カテーテル心筋焼灼術、経皮的動脈形成術、経皮的動脈管開存閉鎖術等が行われる。			
医療技術名	直線加速器定位放射線治療	取扱患者数	48人
当該医療技術の概要 定位放射線照射とは病巣に対し多方向から放射線を集中させる照射方法です。脳定位放射線治療、肺定位放射線治療を実施している。			
医療技術名	強度変調放射線治療(IMRT)	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要 強度変調放射線治療とは腫瘍の形状に合わせた線量分布を形成でき、正常組織の被ばく線量をより低減できる放射線治療の照射技術である。			
医療技術名	血管内皮機能検査	取扱患者数	119人
当該医療技術の概要 動脈硬化の前段階に認められる血管内皮機能の低下を非侵襲的に測定する。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	中耳加圧療法による難治性内リンパ水腫疾患治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
携帯型中耳加圧治療器Meniettならびに鼓膜マッサージ機を用いて、保存的治療に抵抗してめまい発作を反復する遅発性内リンパ水腫疾患患者の治療を行っている。			
医療技術名	hyperdry乾燥羊膜を用いた中耳手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
自家移植材料である側頭筋筋膜の代わりにhyperdry乾燥羊膜を用いて鼓室形成術を行っている。			
医療技術名	心房細動のカテーテル・アブレーション	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要			
難治性心不全患者で左脚ブロックや心室内伝導障害を有する例に両心室ペーシングを行い、重症心不全と予後の改善を図る。			
医療技術名	心不全、虚血性心疾患に対する和温療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
心機能改善、QOLや運動耐容能改善を図るため、薬剤治療に抵抗性の心不全や狭心症例を対象に全身の温熱療法(和温療法)を行っている。			
医療技術名	脳梗塞急性期患者に対する血栓溶解療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
脳梗塞発症3時間以内の患者に対してTPA(アルテプラゼ)静注による血栓溶解療法を行なう。			
医療技術名	神経免疫疾患に対する大量免疫グロブリン静注療法	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			
ギラン・バレー症候群中,CIDP(慢性炎症性脱髄性多発神経炎),重症筋無力症患者に対して血漿変換を施行する治療。			
医療技術名	遊離骨皮弁による下顎再建	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
新生物により下顎骨区域切除を行った後の下顎骨に対する遊離肩甲骨を用いた即時再建術。			
医療技術名	ガンマプローブを用いたセンチネルリンパ節生検	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
放射線同位体を用いリンパシンチを行ったのちにリンパ節生検を行う当科では悪性黒色腫等のリンパ節転移の有無を検査するために用いている。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	天疱瘡に対するガンマグロブリン大量静注治療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
難治性の天疱瘡に対してガンマグロブリン大量静注を行っている。			
医療技術名	乾燥羊膜を用いた難治性角膜疾患の治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
当院で独自に作成したヒト乾燥羊膜を用いて角膜穿孔、緑内障術後に対し、効果的な治療をしている。			
医療技術名	近視性血管新生黄斑症に対する抗VEGF療法	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要			
強度近視に伴う血管新生黄斑症に対して抗VEGF療法を眼内注射し、より効果的な治療を行う。			
医療技術名	黄斑浮腫に対する抗VEGF療法	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要			
網膜血管障害に伴う黄斑浮腫は視力障害の大きな原因でありその黄斑浮腫に対して抗VEGF療法の眼内注射で治療する。			
医療技術名	角膜内皮移植(DSAEK)と角膜移植	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			
重症角膜疾患に対して角膜移植術を行う。症例に応じてより視力改善効果の高い角膜内皮移植術を行う。			
医療技術名	ステント併用脳動脈瘤塞栓術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要			
従来、血管内治療が困難であった広頸脳動脈瘤に対する頭蓋内ステント(Enterprise VRD)を併用したコイル塞栓術。			
医療技術名	巨大脳動脈瘤治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
通常の治療では困難な巨大脳動脈瘤に対する外科手術・脳血管内治療を複合させた治療。			
医療技術名	脳動静脈奇形塞栓術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
脳動静脈奇形摘出術前に行う、液体塞栓物質(NBCA)やコイルを用いた塞栓術。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	硬膜動脈瘻に対する脳血管内手術あるいは外科手術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要			
硬膜動脈瘻に対する経動脈的あるいは経静脈的塞栓術。			
医療技術名	脳深部刺激療法(定位脳手術)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
パーキンソン病などの不随意運動疾患などに対して脳深部に刺激電脈を挿入し、持続的に刺激することにより症状の軽減をもたらす手術医療。			
医療技術名	脊髄刺激療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
難治性疼痛患者に対して硬膜外電極を留置し疼痛の軽減をは図る治療法。			
医療技術名	バクロファン髄注療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
脳・脊髄疾患などにより重症痙縮をきたす患者に対して体内に埋め込まれたポンプで筋弛緩作用のあるバクロフェンを硬膜内に持続注入をすることにより痙縮の改善を図る治療方。			
医療技術名	経鼻的内視鏡的下垂体手術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
下垂体腫瘍などで経鼻的に内視鏡に使用し、腫瘍摘出術を行う方法。			
医療技術名	広範囲頭蓋底腫瘍切除再建術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
広範囲に広がる頭蓋底腫瘍を切除し、頭蓋骨を再建し閉創する手術。			
医療技術名	ナビゲーション支援による脳腫瘍手術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要			
あらかじめ撮影された患者のMRIやCTのデータをコンピューター処理し、赤外線モニターにより実際の位置と画面上の位置を同期させて腫瘍の切除範囲を決定し、安全の腫瘍摘出範囲を行う。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	31人	・膿疱性乾癬	1人
・多発性硬化症	48人	・広範脊柱管狭窄症	7人
・重症筋無力症	29人	・原発性胆汁性肝硬変	33人
・全身性エリテマトーデス	133人	・重症急性膵炎	人
・スモン	3人	・特発性大腿骨頭壊死症	21人
・再生不良性貧血	9人	・混合性結合組織病	25人
・サルコイドーシス	33人	・原発性免疫不全症候群	6人
・筋萎縮性側索硬化症	21人	・特発性間質性肺炎	11人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	92人	・網膜色素変性症	59人
・特発性血小板減少性紫斑病	16人	・プリオン病	人
・結節性動脈周囲炎	20人	・肺動脈性肺高血圧症	4人
・潰瘍性大腸炎	96人	・神経線維腫症	8人
・大動脈炎症候群	14人	・亜急性硬化性全脳炎	人
・ビュルガー病	15人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	人
・天疱瘡	12人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	3人
・脊髄小脳変性症	40人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	人
・クローン病	56人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	人
・悪性関節リウマチ	23人	・脊髄性筋萎縮症	人
・パーキンソン病関連疾患	141人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	2人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	6人
・後縦靭帯骨化症	36人	・肥大型心筋症	2人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	15人	・ミトコンドリア病	4人
・ウェゲナー肉芽腫症	6人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	41人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	人
・多系統萎縮症	20人	・黄色靭帯骨化症	4人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害	27人
		合計	1179人

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。





## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	認知症による全身麻酔薬の修飾作用の解明および安全な麻酔法の確立	佐々木 利佳	麻酔科学	500,000 円	補委 文部科学省
2	SIRT1活性化によるインスリン抵抗性改善機構に関する研究	小清水由紀子	第一内科	1,200,000 円	補委 文部科学省
3	表皮角化関連分子の系統的解析とヒト疾患への応用	牧野 輝彦	皮膚科	800,000 円	補委 文部科学省
4	食道癌および胃癌における腫瘍幹細胞と骨髄由来細胞の相互作用の解析	奥村 知之	外科学(消化器・腫瘍・総)	1,200,000 円	補委 文部科学省
5	前立腺癌に対する放射線刺激応答性人工プロモーターの開発	渡部 明彦	腎泌尿器科学	1,400,000 円	補委 文部科学省
6	妊娠高血圧症候群の病態解明—サイトカイン分泌に対するオートファジー応答の観点から	中島 彰俊	産科婦人科学	1,600,000 円	補委 文部科学省
7	非アルコール性脂肪性肝障害に対する桂枝茯苓丸の効果	藤本 誠	和漢診療学	900,000 円	補委 文部科学省
8	視床下部RAS系の破綻が中枢ミトコンドリア障害を介したエネルギー代謝に及ぼす影響	和田 努	病態制御薬理学	1,800,000 円	補委 文部科学省
9	脂肪組織マクロファージとインスリン感受性の関与についての研究	藤坂 志帆	第一内科	2,200,000 円	補委 文部科学省
10	川崎病急性期における自然免疫応答による炎症の制御機構の解明	齋藤 和由	小児科	2,200,000 円	補委 文部科学省
11	脊椎椎間板疾患の病態解明に立脚した新規治療法の確立	関 庄二	整形外科・運動器病学	1,300,000 円	補委 文部科学省
12	口唇口蓋裂の一貫治療への患児由来羊膜および羊膜間葉系細胞の応用に関する基礎的研究	津野 宏彰	歯科口腔外科	1,500,000 円	補委 文部科学省
13	脳高次機能および修復反応における血小板由来増殖因子シグナル解明	笹原 正清	病態・病理学	3,900,000 円	補委 日本学術振興会
14	成長に伴う制御性T細胞の機能発達とその異常に関する研究	宮脇 利男	小児科学	2,900,000 円	補委 日本学術振興会
15	ヒト羊膜細胞による心筋ペースメーカー細胞の樹立と新たなペーシング療法の開発	三崎 拓郎	外科学(呼吸・循環・総)	1,900,000 円	補委 日本学術振興会
16	運動器疾患感受性遺伝子の機能解明に立脚した軟骨変性治療	木村 友厚	整形外科・運動器病学	3,700,000 円	補委 日本学術振興会
17	生殖免疫の立場から見た不育症、早産、妊娠高血圧症候群の病態解明	齋藤 滋	産科婦人科学	4,300,000 円	補委 日本学術振興会
18	豊かな環境における中枢神経新生を介した慢性疼痛に対する治療戦略	山崎 光章	麻酔科学	2,100,000 円	補委 日本学術振興会
19	統合失調症警告期の新しい診断法と早期治療法の開発: 認知機能と脳機能画像による検討	住吉 太幹	神経精神医学	800,000 円	補委 日本学術振興会
20	こころのリスク状態における脳構造および脳機能の解明	中村 主計	神経精神科	600,000 円	補委 日本学術振興会
21	神経幹細胞分化を誘導する血小板由来増殖因子の機能解明	石井 陽子	病態・病理学	1,200,000 円	補委 日本学術振興会
22	超音波エネルギーを利用した多剤耐性肝癌の新しい治療法の開発	峯村 正実	第三内科	300,000 円	補委 日本学術振興会
23	心不全の自律神経機能の概日リズム異常と中枢性CO2化学反射感受性に関する研究	井上 博	内科学(第二)	500,000 円	補委 日本学術振興会
24	心筋緻密化障害における予後推定因子としてのNaチャネル遺伝子変異の検討	市田 萌子	小児科学	900,000 円	補委 日本学術振興会
25	マクロファージ遊走阻止因子の表皮における役割、作用機序の解明	浅野 幸恵	皮膚科	800,000 円	補委 日本学術振興会
26	水疱性類天疱瘡の病態解明と新規治療法の開発	清水 忠道	皮膚科学	1,000,000 円	補委 日本学術振興会
27	統合失調症におけるミラーニューロンシステムの構造・機能解析と早期補助診断への応用	鈴木 道雄	神経精神医学	600,000 円	補委 日本学術振興会
28	サルを用いた強大音による外眼筋誘発筋電位動物モデル作成	将積 日出夫	耳鼻咽喉科頭頸部外科	700,000 円	補委 日本学術振興会
29	多種類の刺激様式による前庭性高次脳機能応答に関する研究	渡邊 行雄	耳鼻咽喉科頭頸部外科	500,000 円	補委 日本学術振興会
30	ナノ粒子を利用した特異的温度制御による口腔癌治療	和田 重人	歯科口腔外科	500,000 円	補委 日本学術振興会
31	口腔癌の顎骨浸潤の様態とそのメカニズムの解明—分子診断への応用—	野口 誠	歯科口腔外科学	700,000 円	補委 日本学術振興会
32	非アルコール性脂肪性肝炎と原発性胆汁性肝硬変の発症過程における類似性	常山 幸一	病理診断学	1,000,000 円	補委 日本学術振興会
33	迅速・簡便・安価な敗血症起因菌同定ITシステムの構築	仁井見 英樹	検査部	1,000,000 円	補委 日本学術振興会
34	低酸素適応応答機構における和漢薬の標的分子と病態変化の解析	後藤 博三	和漢診療学	900,000 円	補委 日本学術振興会

35	漢方薬による褥瘡治療の作用機序の解明	引網 宏彰	和漢診療科	1,100,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
36	脂肪組織M1、M2マクロファージによるインスリン抵抗性の制御についての研究	戸辺 一之	内科学(第一)	700,000 円	<input type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
37	抗体産生不全症における自然免疫系の異常に関する研究	金兼 弘和	小児科	700,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
38	必須多価不飽和脂肪酸を指標にした認知症に伴う周辺症状の発症予測の試み	上原 隆	神経精神科	1,000,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
39	新規遺伝子解析法を用いた乳癌の治療効果予測に関する探索的研究	長田 拓哉	第二外科	1,000,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
40	ヒト正常胆嚢上皮と胆嚢癌におけるアクアポリンの役割解析	塚田 一博	外科学(消化器・腫瘍・総)	1,200,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
41	オートファジー誘導による悪性グリオーマ治療抵抗性克服の試み	栗本 昌紀	脳神経外科	700,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
42	敗血症病態がベースメーカー細胞に及ぼす影響—遺伝子による不整脈治療戦略の構築—	島山 登	手術部	1,100,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
43	前立腺癌におけるHGF関連因子の発現と浸潤・増殖機構に及ぼす影響	布施 秀樹	腎泌尿器科学	600,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
44	早産例における分娩監視ならびに羊水所見からみた適切な分娩時期の決定	米田 哲	周産母子センター	1,100,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
45	救急外来トリアージ基準確立のための情報収集システム構築に関する研究	若杉 雅浩	危機管理医学	1,500,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
46	メタボリックシンドロームにおける和漢薬の血管内皮機能保護作用に関する研究	嶋田 豊	和漢診療学	1,600,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
47	脂肪組織マクロファージとインターロイキン10による代謝調節に関する研究	薄井 勲	内科学(第一)	2,700,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
48	精神疾患における脳形態変化の疾患特異性に関する研究	高橋 努	神経精神医学	1,600,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
49	細動波(f波)周波数解析によるガイド下心房細動手術の開発	深原 一晃	外科学(呼吸・循環・総)	2,000,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
50	リンパ管新生評価系並びにリンパ節転移モデルを用いたリンパ管新生機序解明と治療応用	土岐 善紀	外科学(呼吸・循環・総)	2,200,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
51	脊椎靭帯骨化症における骨化形成のメカニズムの解明と治療	川口 善治	整形外科・運動器病学	2,200,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
52	アルツハイマー病による全身麻酔薬作用の修飾—疾病モデルマウス海馬における検討—	廣田 弘毅	麻酔科学	1,200,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
53	経脈絡膜上腔ドラッグデリバリーの開発	林 篤志	眼科学	1,500,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
54	e-learningとバーチャルスライドを用いた医学病理学教育システムの構築	石澤 伸	病態・病理学	500,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
55	ヒト上皮培養細胞を用いた多能性幹細胞の樹立と組織構築の研究	嶋田 裕	外科学(消化器・腫瘍・総)	1,500,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
56	羊水中病原微生物の迅速同定と迅速薬剤感受性試験を用いた産科診療システムの構築	齋藤 滋	産科婦人科学	1,000,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
57					<input type="checkbox"/>	補委	

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。  
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合には「委」に「レ」をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績		題名	命題	発表者氏名	所属部門
No.	雑誌	名			
1	糖尿病, 53(11)		2型糖尿病のインスリン抵抗性における炎症の役割(リリー賞受賞講演)	薄井 勲	第一内科
2	Sleep Med, 11		Impact of sleeping position on central sleep apnea/Cheyne-Stokes respiration in patients with heart failure	Joho S.	第二内科
3	Circ J, 74		Fluvastatin attenuates diabetes-induced cardiac sympathetic neuropathy in association with a decrease in oxidative stress	Matsuki A	第二内科
4	Circ J, 74		Sex-related differences in the risk factor profile and medications of patients with atrial fibrillation recruited in J-TRACE	Inoue H	第二内科
5	Auton Neurosci, 155		Renal insufficiency coexisting with heart failure is related to elevated sympathetic nerve activity	Oda Y	第二内科
6	J Cardiol, 56		Impact of myocardial perfusion abnormality on prognosis in patients with non-ischemic dilated cardiomyopathy	Sobajima M	第二内科
7	J Am Coll Cardiol, 56		Roles of the left atrial roof and pulmonary veins in the anatomic substrate for persistent atrial fibrillation and ablation in a canine model	Nishida K	第二内科
8	Auton Neurosci		Circadian changes in autonomic function in conscious rats with heart failure: effects of amiodarone on sympathetic surge	Otori T.	第二内科
9	J Am Coll Cardiol, Nov 16		Roles of the left atrial roof and pulmonary veins in the anatomic substrate for persistent atrial fibrillation and ablation in a canine model.	Nishida K	第二内科
10	Cardiovasc Res, Nov 19, 2010		The role of pulmonary veins vs. autonomic ganglia in different experimental substrates of canine atrial fibrillation	Nishida K	第二内科
11	透析会誌, 43		トリアセートホロアライバードアイライザ-FB-UHの蛋白結合型尿毒素の除去能	山崎秀憲	第二内科
12	日本腎臓学会誌, 52巻5号		:ホリスルホンダライザ-APS-MDとの比較 サイトメガロウイルス腸炎を併発した紫斑病性腎炎の1剖検例	大原麻衣子	第二内科
13	日本透析医学会誌, 43巻4号		烏アセートホロアライバードアイライザ-FB-UHの蛋白結合型尿毒素の除去能 ポリスルホンダライザ-APS-MDとの比較	山崎秀憲	第二内科
14	Antiviral Research, 87		Analysis of the epitope and neutralizing capacity of human monoclonal antibodies induced by hepatitis B vaccine	Tajiri K	第三内科
15	J. Neuroscience, 30		Involvement of TRPV2 activation in intestinal movement through nitric oxide production in mice	Mihara H	第三内科
16	Gastroenterol., 45		Persistence of a component of DNA methylation in gastric mucosae after Helicobacter pylori eradication	Nakajima T	第三内科
17	Medicament News, 2015		消化性潰瘍における除菌治療	杉山敏郎	第三内科
18	日本ヘリコバクター学会誌, 12		Helicobacter pylori除菌判定における13C-尿素呼吸気試験とHelicobacter pylori便中抗原法の比較	加藤智恵子	第三内科
19	Eur. J. Dermatol., 20		Multiple autoimmune syndrome in a Japanese patient with pemphigus foliaceus	Furuichi M	皮膚科
20	Eur. J. Dermatol., 20		Detection of human papillomavirus type 33 and 56 in extragenital Bowen's disease involving the sole	Hara H	皮膚科
21	Arch. Dermatol. Res., 302		Usefulness of sebum check film in the measuring of sebum secretion	Furuichi M	皮膚科
22	Online J., 16		Fixed drug eruption due to the Japanese herbal drug kakkonto. Dermatol	Furuichi M	皮膚科
23	Br. J. Dermatol		Livedo racemosa presenting with congenital fibromuscular dysplasia	Makino T.	皮膚科
24	新薬と臨床, 59		実験的褥瘡の形成におけるオロナイン®軟膏の抑制効果の検討	山腰高子	皮膚科
25	新薬と臨床, 59		アトピー性皮膚炎に対するセチリジン塩酸塩の治療効果の検討-マクロファージ遊走阻止因子を指標とし	乗杉 理	皮膚科
26	漢方医学, 34		難治性慢性色素性紫斑に対する桂枝茯苓丸の有効性	古市 寛	皮膚科
27	ERで診る皮膚科疾患・月刊レジデント, 3(9)		主要候補別ER診療の実態(第18回)	松井恒太郎	皮膚科
28	J Thorac Cardio Surg, 140		Bosentan induces clinical and hemodynamic improvement in candidates for right-sided heart bypass surgery	Hirano K	小児科

29	J Pharmacol Exp Ther, 333	Novel anticytomegalovirus activity of immunosuppressant mizoribine and its synergism with ganciclovir	Kuramoto T	小児科
30	日本小児アレルギー学会誌, 24	乳幼児喘息の疫学調査のための質問表の妥当性に関する検討	岡部美恵	小児科
31	A case report. Journal of Clinical Psychopharmacology, 30	Effect of tandospirone on mismatch negativity and cognitive performance in schizophrenia	Higuchi Y	神経精神科
32	Journal of Neural Transmission, 117	Change in the expressions of myelination/oligodendrocyte-related genes during puberty in the rat brain	Matsuoka T	神経精神科
33	Advances in Therapy, 27	Serotonin-1A receptor gene polymorphism and the ability of antipsychotic drugs to improve attention in schizophrenia	Sumiyoshi T	神経精神科
34	Prog. Neuropsychopharmacol. Biol. Psychiatry, 34	An MRI study of the superior temporal subregions in patients with current and past major depression	Takahashi T	神経精神科
35	J. Affect. Disord., 121	Volumetric MRI study of the insular cortex in individuals with current and past major depression	Takahashi T	神経精神科
36	Schizophr. Res., 117	Lack of progressive gray matter reduction of the superior temporal subregions in chronic schizophrenia	Takahashi T	神経精神科
37	Br. J. Psychiatry, 196	Superior temporal gyrus volume in antipsychotic-naïve people at risk of psychosis	Takahashi T	神経精神科
38	Psychiatry Res. Neuroimaging, 182	Superior temporal gyrus volume in teenagers with first-presentation borderline personality disorder	Takahashi T	神経精神科
39	J. Affect. Disord., 122	Midline brain abnormalities in established bipolar affective disorder	Takahashi T	神経精神科
40	J. Affect. Disord.	Gray matter reduction of the superior temporal gyrus in patients with established bipolar I disorder	Takahashi T	神経精神科
41	Psychiatry Res. Neuroimaging, 182	Insular cortex volume in established bipolar affective disorder: a preliminary MRI study	Takahashi T	神経精神科
42	Schizophr. Res., 119	A follow-up MRI study of the superior temporal subregions in schizotypal disorder and first-episode schizophrenia	Takahashi T	神経精神科
43	J. Affect. Disord., 124	Pituitary volume in patients with bipolar disorder and their first-degree relatives	Takahashi T	神経精神科
44	Brain Research, 1352	Neonatal exposure to MK-801, an N-methyl-D-aspartate receptor antagonist, enhances methamphetamine-induced locomotion and disrupts sensorimotor gating in pre- and	Uehara T	神経精神科
45	精神医学, 52	集中内観における共感の変化—Interpersonal reactivity index を用いて—	古市厚志	神経精神科
46	臨床精神医学, 39	集中内観による死生観の変化の検討—臨老式死生観尺度を用いて—	古市厚志	神経精神科
47	Use of susceptibility-weighted imaging in combination	Intracranial dural arteriovenous fistula with retrograde cortical venous drainage	Noguchi K	放射線科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

No.	論文発表等の実績	題名	命題	発表者氏名	所属部門
48	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery, 10	Sutureless pericardial repair of total anomalous pulmonary venous connection in patients with right atrial isomerism		Yoshimura N	第一外科
49	European Journal of Cardio-thoracic Surgery, 38	Impact of preoperative atrial fibrillation on the late outcome of off-pump coronary artery bypass surgery		Fukahara K	第一外科
50	胸部外科, 63	人工心肺を用いないoff-pump肺静脈隔離術の現状と展望		深原一昇	第一外科
51	日冠疾患誌, 16	DES移植後症例に対する冠動脈バイパス術の経験		湖東慶樹	第一外科
52	心臓リハビリテーション, 15	当院における術後急性期心臓リハビリテーション導入の試み		武内克憲	第一外科
53	消化器外科, 33	食道癌集学的治療の効果を予測と個別化治療		長田拓哉	第二外科
54	外科, 72	門脈と脾臓のUp date I. 門脈 6. 食道・胃静脈瘤に対する外科治療の役割		興村知之	第二外科
55	外科, 72	必読 セカンドオピニオン. II. 肝胆脾. 8. 乳頭部癌		松井恒志	第二外科
56	消化器外科 臨時増刊 外科医当直医必携, 33	肝臓場ドレナージ術		北條莊三	第二外科
57	Neurol Med Chir (Tokyo), 50	Anomia for people's named after left anterior temporal lobe resection.		Kurimoto M	脳神経外科
58	Neurol Med Chir, 50	Consequences of preoperative evaluation of patterns of drainage of the cavernous sinus in patients treated using the anterior transpetrosal approach		Havashi N	脳神経外科
59	脳卒中の外科, 38	末梢性前大脳動脈瘤に対する手術アプローチ-Horizontal head positionを用いたdistal approachの有用性		林 央周	脳神経外科
60	Geriatric Neurosurgery, 22	高齢者脳室内出血に対する神経内視鏡的血腫除去術		浜田秀雄	脳神経外科
61	Clin Biomechanics., 25	Biomechanical effects of patellar positioning on intraoperative knee joint gap measurement in total knee arthroplasty		Gejo R	整形外科
62	J. Orthop. Res., 28	Ionizing radiation enhances tumor necrosis factor-related apoptosis-inducing ligand (TRAIL)-induced apoptosis through up-regulations of death receptor 4 (DR4) and death receptor 5 (DR5) in human osteosarcoma cells		Hori T	整形外科
63	Cancer Lett., 287	Nutlin-3 enhances tumor necrosis factor-related apoptosis-inducing ligand (TRAIL)-induced apoptosis through up-regulation of death receptor 5 (DR5) in human sarcoma HOS cells and human colon cancer HCT116 cells		Hori T	整形外科
64	中部整災誌, 53(1)	頸椎椎弓形成術後患者の職業復帰からみたADLの検討		川口善治	整形外科
65	中部整災誌, 52(5)	脊椎靭帯骨化症患者における全脊椎骨化巣の評価と脊椎の骨化領域が手術成績に与える影響についての検討		川口善治	整形外科
66	整形外科, 61(6)	関節リウマチに対するエタネルセプト25mg週1回投与の臨床成績		松下 功	整形外科
67	Hip joint, 36	RAIに対するVerSys hip systemを用いたセメントレス人工股関節の中期成績		松下 功	整形外科
68	臨床リウマチ, 22	大関節機能を維持する外科的治療のタイミング		松下 功	整形外科
69	日本マイクロサージャリー学会誌, 23(3)	手のマイクロサージャリー手術における持続的末梢神経ブロック		長田龍介	整形外科
70	中部整災誌, 53	脊柱管狭窄を伴った非骨傷性頸髄損傷の特異的頸部脊柱管拡大術の治療経験		安田剛敏	整形外科
71	肩関節, 34	腰板断裂肩における小円筋のMRI評価		杉森一仁	整形外科
72	中部整災誌, 53	腰板前方固定術の移植骨には腰椎局所骨または腸骨どちらが有用であるか?		関 庄二	整形外科
73	臨床リウマチ, 22	関節リウマチに対するタクロリムスの臨床成績と関節破壊抑制効果		元村 拓	整形外科
74	整形外科61	腰椎手術における精神的背景の分析		金森昌彦	整形外科
75	日本手外科学会雑誌, 26(6)	手関節部切断再接着症例の機能予後の検討(DASHスコアを用いた評価)		頭川峰志	整形外科

76	Am J Reprod Immunol., 63	Circulating and decidual Th17 cell levels in healthy pregnancy	Nakashima A	産科婦人科
77	Am J Reprod Immunol. Am J Reprod Immunol., 64	Accumulation of IL-17-positive cells in decidua of inevitable abortion cases	Nakashima A	産科婦人科
78	Obstet Gynecol Int., 2010	Systemic lymphadenectomy cannot be recommended for low-risk corpus cancer	Hidaka T.	産科婦人科
79	J. Reprod Immunol, 85	Regulatory T cells are necessary for implantation and maintenance during early stage of pregnancy, but not necessary during late stage of pregnancy in allogeneic mice	Shima T	産科婦人科
80	Osteoporosis Jpn, 18	Bone metabolism after cessation of long-term hormone replacement therapy for postmenopausal osteoporosis	Hasegawa T.	産科婦人科
81	日産婦富山地方部会雑誌, 26	子宮筋腫に対する妊娠能温存手術(腹腔鏡下子宮筋腫切除術)治療効果の検討	日高隆雄	産科婦人科
82	日産婦富山地方部会雑誌, 26	子宮内腫瘍性疼痛に対する深部子宮内腫瘍病巣除去を含む腹腔鏡下手術の効果	日高隆雄	産科婦人科
83	第28回産科学会シンポジウム2010	切迫早産例の分娩時期を予測することによるNICU病床の有効活用	米田 哲	産科婦人科
84	日本眼科学会雑誌, 第114巻第4号	網膜中心静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫に対するbevacizumab硝子体内投与の短期効果	林 篤志	眼科
85	第63回日本臨床眼科学会講演集 原着 臨床眼科, 第64巻第4号	富山大学における網膜剥離の手術成績 - 20ゲージ・23ゲージ・25ゲージでの比較検討	宮腰晃央	眼科
86	Acta Otolaryngol (Stockh), 130	Clinical characteristics of delayed endolymphatic hydrops in Japan: a nation-wide survey by the Peripheral Vestibular Disorder Research Committee of Japan	Shojaku H	耳鼻咽喉科
87	Acta Otolaryngol, 130	Correlation between canal paresis and spontaneous nystagmus during early stage of acute peripheral vestibular disorders	Fushiki H	耳鼻咽喉科
88	Auris Nasus Larynx, 37	Directional preponderance of vertical eye movements induced by cross-axis adaptation of the vestibulo-ocular reflex in the cat	Fushiki H	耳鼻咽喉科
89	Acta Otolaryngol, 130	Diagnosis of sudden low-tone loss other than acute low-tone sensorineural hearing loss	Fushiki H	耳鼻咽喉科
90	Equilibrium Res. 69	耳石機能検査としてのVEMP	藤積日出夫	耳鼻咽喉科
91	耳鼻臨床, 103	頭頸部癌症例における放射線治療後の頸動脈エコー所見	小林健二	耳鼻咽喉科
92	耳鼻臨床, 103	女性喉頭癌症例の臨床的検討 - 喫煙および受動喫煙との関連について -	西田 悠	耳鼻咽喉科
93	A prospective study. Int. J. Urol., 17	Clinical effect of naltopidil on the quality of life of patients with lower urinary tract symptoms suggestive of benign prostatic hyperplasia	Komiya A	泌尿器科
94	Oncology Letters, 1	Oral low-dose dexamethasone for androgen-independent prostate cancer patients	Komiya A	泌尿器科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原着論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	命題	発表者氏名	所属部門
95	Int J Mol Med, 26(suppl.)		Neuroendocrine differentiation in the progression of prostate cancer	Komiya A	泌尿器科
96	J Reproduktionsmed Endokrinol, 7		Comparison of laparoscopic high ligation and microscopic low ligation of the spermatic vein in the patients with varicocele	Komiya A	泌尿器科
97	J Trad Med, 27		Effects of goshajinkigan on patients with prostatic hypertrophy	Fujiuchi Y	泌尿器科
98	J Laparoendosc Adv Surg Tech A, 20		Hand-assisted laparoscopic partial nephrectomy by using an "open" device of microwave tissue coagulator	Nozaki T	泌尿器科
99	J Laparoendosc Adv Surg Tech A, 20		Laparoscopic resection of retrocaecal paraganglioma	Nozaki T	泌尿器科
100	A Novel Technique. J Laparoendosc Adv Surg Tech A, 20		Glove-Assisted Laparoscopic Radical Nephrectomy	Nozaki T	泌尿器科
101	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech, 20		Longitudinal Incision of the Umbilicus for Laparoendoscopic Single Site Adrenalectomy	Nozaki T	泌尿器科
102	J Laparoendosc Adv Surg Tech A, 20		Laparoscopic Excision of Symptomatic Urachal Anomalies: A Technique to Restore the Natural Appearance of the Umbilicus	Nozaki T	泌尿器科
103	EXPERIMENTAL AND THERAPEUTIC MEDICINE, 1		Telomerase activity in bladder cancer tissue	Morii A	泌尿器科
104	Science ofampo Medicine, 34		男性不妊症に対する柴胡加竜骨牡蛎湯の効果—精液所見ならびに8-OHdGの変動—	小宮 顕	泌尿器科
105	日本腎臓器尿器疾患予防医学研究会誌, 18		超音波照射による膀胱腫瘍再発予防への基礎的研究	野崎哲夫	泌尿器科
106	泌尿器外科, 23		当科における局所進行性前立腺癌の治療成績	保田賢司	泌尿器科
107	日本性機能学会雑誌, 25		血管塞栓術後にNPT testにより勃起能の回復を確認し得た流入過剰型持続勃起症の3例	渡部明彦	泌尿器科
108	Anesthesia & Analgesia, 110		Presynaptic actions of general anesthetics are responsible for frequency-dependent modification of synaptic transmission in the rat hippocampal CA1	Hirota K	麻酔科
109	日本手術医学会雑誌, 31(1)		手術部での洗浄・滅菌業務の材料部への統合	中丸勝人	麻酔科
110	日本口腔インプラント学会雑誌, 23(2)		ヘリカルCT再構築画像による下顎臼歯部骨体の形態学的研究	津野宏彰	歯科口腔外科
111	日本顎顔面インプラント学会誌, 9(1)		インプラント支持オパールデンチャー下の顎堤の経時的変化に関する予備的研究	吉田敬子	歯科口腔外科
112	臨床病理58		遺伝子検査室におけるスプレインゲン異常の遺伝子診断—ヒットフォールとアプローチ方法—	仁井見英樹	検査部
113	Ann. N Y Acad. Sci., 1190		The traditional Japanese formula keishibukuryogan reduces liver injury and inflammation in patients with nonalcoholic fatty liver disease	Fujimoto M	和漢診療科
114	Biochem. Biophys. Res. Commun., 391		Identification of candidate genes involved in endogenous protection mechanisms against acute pancreatitis in mice	Nakada S	和漢診療科
115	Int. Arch. Allergy. Immunol., 151		The traditional herbal medicine saireito exerts its inhibitory effect on murine oxazolone-induced colitis via the induction of Th1-polarized immune responses in the mucosal immune system of the colon	Watanabe T	和漢診療科
116	消化器と免疫, 46		オキザロン誘発腸炎の形成におけるTRPV1発現知覚神経の影響	渡辺哲郎	和漢診療科
117	脳神経外科ジャーナル, 19(3)		頭部外傷を含む多発外傷患者の対応と問題点	若杉雅浩	救急部
118	日本臨床救急医学会雑誌, 22		救急患者緊急度判定支援システムJTASの開発. 2. カナダの救急外来支援システムCTASについて	工藤紀斗司	救急部
119	日本臨床救急医学会雑誌, 22		救急患者緊急度判定支援システムJTASの開発. 3. CTASの我が国への導入: JTASの基本コンセプト	奥寺 敬	救急部
120	臨床研修ブレイク, 7		脳卒中と誤りやすいその他の神経症状—どう鑑別するか—	有嶋拓郎	救急部
121	Medicina, 47		肺塞栓CTD-dimerさえ測定しておけばいいんでは	有嶋拓郎	救急部
122	月刊レジデント, 3		頸椎頸髄損傷	有嶋拓郎	救急部
123	ICUとCCU, 34		患者さんのどんなサインも見逃さない! 救急外来トリアージ実践マニュアル	有嶋拓郎	救急部
124	EMERGENCY CARE 2010夏季増刊		救急外来患者緊急度判定支援システムCTAS/JTAS	奥寺 敬	救急部



125	富山大学医学会雑誌, 21	日本・カナダ合同緊急度判定支援システム研究学会一開催報告	若杉雅浩	救急部
126	臨床病理, 58	遺伝子検査室におけるスライディング異常の遺伝子診断-ピットフォールとアプローチ方法-	仁井見英樹	検査部
127	日本手術医学会雑誌, 31(1)	手術部での洗浄・滅菌業務の材料部への統合	中丸勝人	手術部
128	AJNR, 31	Intracranial dural arteriovenous fistula with retrograde cortical venous drainage:	Noguchi K	放射線部
129	ICUとCCU, 34	Use of susceptibility-weighted imaging in combination with dynamic susceptibility contrast	有嶋拓郎	救急部
130	医療情報学, 30(Suppl)	医学部学生に対する疑似ICUを使った集中治療医学の臨床教育 アーカイブシステムスタンプを採用した後利用と長期保存を考慮した院内紙文書電子保存システム	中川 肇	経営企画情報部
131	J Thorac Cardio Surg, 140	Bosentan induces clinical and hemodynamic improvement in candidates for right-sided heart bypass surgery	Hirono K	周産母子センター
132	Am J Reprod Immunol, 63	Circulating and decidual Th17 cell levels in healthy pregnancy	Nakashima A	周産母子センター
133	シンポジウム「周産期と医療安全 周産期医療システムと医療安全」, 99-104, 2010	切迫早産例の分娩時期を予測することによるNICU病床の有効活用。	米田 哲	周産母子センター
134	日本プライマリ・ケア連合学会誌, 33(3)	第28回周産期学シンポジウム2010	山城清二	総合診療部
135	ER Magazine, 7(1)	日本総合診療医学会, 病院総合医ワーキンググループ(WG)からの報告 ER必須薬30	山城清二	総合診療部
136	医学教育, 41	Introducing Narrative Based Medicine to Medical Students : Story writing exercise from two view points	Kita K	総合診療部
137	nter Med, 49	Significant Impairment of Left Atrial Function in Patients with Cardioembolic Stroke Caused by Paroxysmal Atrial Fibrillation	Taguchi Y	神経内科
138	機能的脳神経外科, 49	ハンガー反射を用いた頸部ジストニアの治療の試み	旭 雄士	神経内科
139	神経治療学, 27(5)	Branch atheromatous diseaseに対するozagrel Naと heparin併用療法の有効性の検討	田口芳治	神経内科
140	Bioorg. Med. Chem., 18(11)	2,5-Dideoxy-2,5-imino-D-altritol as a new class of pharmacological chaperone for Fabry disease	Kato A	薬剤部
141	Bioorg. Med. Chem. Lett., 20(19)	6,7-Dihydroxy-4-phenylcoumarin as inhibitor of aldose reductase 2	Kato A	薬剤部
142	Phytochem. Lett., 3(4)	An -glucoside of 1,4-dideoxy-1,4-imino-D-lyxitol with an eleven carbon side chain	Kato A	薬剤部

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したこと(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)  
を100件以上記入すること(当該医療機関について発表者が複数の場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数の場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病 院 長 井 上 博
管理担当者氏名	経営企画情報部長 中川 肇      放射線部長 瀬戸 光 薬 剤 部 長 足立 伊佐雄      看護部長 山口 千鶴子 総務企画グループ長 丸田 由男 医療サービスグループ長 菊 映子

		保 管 場 所	分 類 方 法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療サービスグループ、薬剤部、看護部及び放射線部	カルテ等（電子カルテを含む。）の病歴資料は、1患者1ファイル方式による永久一元番号で分類し、外来カルテは最終受診日から8年以上、入院カルテは退院日から10年以上の保存を原則としている。 また、エックス線写真は、1患者1ファイル方式で、最終使用日から8年間の保存を原則としている。 これらは、コンピュータによる集中管理を行っている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務企画グループ人事チーム	/
	高度の医療の提供の実績	医療サービスグループ	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務企画グループ病院運営企画チーム	
	高度の医療の研修の実績	総務企画グループ病院運営企画チーム	
	閲覧実績	総務企画グループ病院運営企画チーム	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービスグループ	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービスグループ及び薬剤部	
確規保則の第9条の23及び第	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム	/
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム	

	1 条の 1 1 各号 に掲 げる 体制	医療に係る安全管理 のための指針の整備状 況	総務企画グループ 医療安全管理支援 チーム	
		医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況	総務企画グループ 医療安全管理支援 チーム	
		医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況	総務企画グループ 医療安全管理支援 チーム	
		医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	総務企画グループ 医療安全管理支援 チーム	
			保管場所	分類方法
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	規 則 第 1 条の 1 1 各号 に掲 げる 体制 確保 の状 況	院内感染のための指 針の策定状況	総務企画グループ 医療安全管理支援 チーム	
		院内感染対策のため の委員会の開催状況	総務企画グループ 医療安全管理支援 チーム	
		従業者に対する院内 感染対策のための研修 の実施状況	総務企画グループ 医療安全管理支援 チーム	
		感染症の発生状況の 報告その他の院内感染 対策の推進を目的とし た改善のための方策の 実施状況	総務企画グループ 医療安全管理支援 チーム	
		医薬品の使用に係る 安全な管理のための責 任者の配置状況	総務企画グループ 医療安全管理支援 チーム	
		従業者に対する医薬 品の安全使用のための 研修の実施状況	総務企画グループ 医療安全管理支援 チーム	
		医薬品の安全使用の ための業務に関する手 順書の作成及び当該手 順書に基づく業務の実 施状況	総務企画グループ 医療安全管理支援 チーム	
		医薬品の安全使用の ために必要となる情報 の収集その他の医薬品 の安全使用を目的とし た改善のための方策の 実施状況	総務企画グループ 医療安全管理支援 チーム	
		医療機器の安全使用 のための責任者の配置 状況	総務企画グループ 医療安全管理支援 チーム	

		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	総務企画グループ 医療安全管理支援チーム	
規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	総務企画グループ 医療安全管理支援チーム	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	総務企画グループ 医療安全管理支援チーム	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療の提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医業系病院事業部 総務企画グループ長 丸田由男
閲覧担当者氏名	医業系病院事業部 総務企画グループ 病院運営企画チーム 波多野貴大
閲覧の求めに応じる場所	総務企画グループ

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療の提供の実績

紹介率	74.1%	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A : 紹介患者の数	8,736人	
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	4,989人	
	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,000人	
	D : 初診の患者の数	14,872人	

(注) 1 「紹介率」欄はA、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dはそれぞれの延べ数を記入すること。

## 規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・指針の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院における安全管理に関する基本的な考え方</li> <li>2. 医療に係る安全管理のための委員会その他の病院組織に関する基本的事項</li> <li>3. 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針</li> <li>4. 病院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針(患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。)</li> <li>7. 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理方針の策定及び推進に関すること。</li> <li>2. インシデントの報告に関すること。</li> <li>3. 医療安全管理の教育及び研修に関すること。</li> <li>4. 医療安全管理対策の検討及び医療安全管理マニュアル作成に関すること。</li> <li>5. 医療の質向上への取組みに関すること。</li> <li>6. 重大なインシデントに係る調査及び対策に関すること。</li> <li>7. 医療事故対応の意思決定・報告・広報に関すること。</li> <li>8. その他医療安全管理に関すること。</li> </ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 回
<p>・研修の主な内容</p> <p>インシデント事例検討会、医療安全推進のための特別講演会、各病棟フロアへのAED導入に伴う研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危ない転倒を見極める</li> <li>・スライディングスケールの考え方</li> <li>・転倒時の対応</li> <li>・新時代の医療安全～病状説明の音声記録化</li> <li>・血糖コントロールの院内ルール制定に向けて</li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理室の専任スタッフが、インシデント報告書を毎日チェックし、事前に3b以上の報告などの重要事例を検証し、医療安全管理室長及び医療安全管理室ミーティングに報告する。必要に応じ、室長が特別事例検討会を開催し、事実確認のうえ、警察への届出及び医療事故調査委員会開催の是非を検討し、病院長及び医療安全管理委員会に報告する。</li> <li>2. 医療安全管理室ミーティングにおいて、インシデント報告のうち、院内全体に関わる内容を中心に、システム的な問題点等を検討し、改善策を医療安全管理委員会の承認を得て、全部署に周知する。</li> <li>3. 各部署において、当該部署のリスクマネージャーが中心となって、事故発生の背景や内容、防止対策について、カンファレンス等でRCAを用いて検討する。</li> <li>4. インシデント事例検討会において、当該期間に発生した事例から2例を選択し、事例の概要説明及び再発防止策を発表後、質疑応答形式でディスカッションを行う。</li> </ol>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有( 2 名) <input type="checkbox"/> 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有( 1 名) <input type="checkbox"/> 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・所属職員：専任( 2 )名 兼任( 21 )名</p>	

・活動の主な内容

1. インシデントの収集・調査・分析、発生要因の究明及び防止対策に関する事。
2. 医療事故防止対策の周知徹底に関する事。
3. 医療安全管理に係る病院内の巡視・点検・評価に関する事。
4. 医療安全管理に係る業務改善の提言・指導に関する事。
5. インシデントの事例・対策等の情報収集に関する事。
6. 医療安全管理に係る教育・研修・啓発に関する事。
7. 医療安全管理マニュアル遵守の確認と成果の検証に関する事。
8. 医療安全管理委員会への情報提供及び改善策の提案に関する事。
9. リスクマネージャー会議に関する事。
10. 医療事故情報の管理に関する事。
11. インフォームドコンセントの適正運用に関する事。
12. 適切な診療録のあり方の検討及び情報公開への対応に関する事。
13. その他医療の安全管理に関する事。

⑧ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

有     無

## 院内感染のための体制の確保に係る措置

① 院内感染のための指針の策定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・指針の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>2. 委員会等の組織に関する基本事項</li> <li>3. 職員研修に関する基本方針</li> <li>4. 発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5. 感染発生対応に関する基本方針</li> <li>6. 指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>7. その他必要な基本方針</li> </ol>	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染予防対策の確立に関すること。</li> <li>2. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。</li> <li>3. 感染予防の啓発及び教育に関すること。</li> <li>4. 感染に係る事故等の疫学調査及び事後措置に関すること。</li> <li>5. 感染予防対策の評価及び改善に関すること。</li> <li>6. 感染予防対策に係る情報の収集に関すること。</li> <li>7. その他感染予防に関すること。</li> </ol>	
③ 従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・研修の主な内容</p> <p>院内感染対策講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸液管理と血流感染症について</li> <li>・当院の針刺し事故の現状と対策の効果</li> <li>・手術部位感染対策と抗菌薬の適正使用について</li> </ul>	
<p>④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <p>・病院における発生状況の報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染サーベイランスを実施し、データ分析・評価し、感染予防対策の見直しや看護ケアの改善につなげる。</li> <li>2. 院内感染情報レポートを活用し、職員への情報提供を行う。</li> <li>3. 院内ラウンドを通して、感染防止技術に関する確認・指導を行う。</li> </ol>	



## 医薬品の使用に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品の業務手順について</li> <li>2. 医薬品の安全使用について</li> <li>3. 消毒液及び抗菌薬の使用について</li> </ol>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	年 1 回
<p>・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・業務の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品の採用・購入に関する事項</li> <li>2. 医薬品の管理に関する事項(麻薬等の管理方法等)</li> <li>3. 患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法</li> <li>4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項</li> <li>5. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項</li> <li>6. 他施設(病院等、薬局等)との連携に関する事項</li> </ol>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 業者からの緊急連絡及び医薬品医療機器情報提供ホームページ等から情報を収集し、必要な医薬品情報を、薬事ニュースの配布及び電子掲示板等で情報提供を行う。</li> <li>2. 副作用による健康被害情報を病院長に報告のうえ、厚生労働省に報告する。</li> </ol>	

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 76 回
※総合研修5回、個別件数71回	
<p>・活動の主な内容</p> <p>次の医療機器に関する安全使用のための研修を実施。</p> <p>人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置(AEDを含む。)、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	年 1473 回
※特定8品目年1回、随時日常保守点検	
・手順書の作成	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・保守点検の主な内容</p> <p>使用者がチェックリストに基づく使用前、使用中、使用後の点検を基本とする。更に使用部署若しくは、医療機器管理センターで、器機の使用状況、程度に応じ、使用毎や年1回から4回程度の詳細点検を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医療機器に係る情報の収集の整備	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>病院総合情報システムの掲示板で、電子化された添付文書等の掲示や、医療安全管理委員会からリスクマネージャー経由で、電子メールによる通知を行っている。また、不具合等に関する情報は、病院長及び管理者等に報告のうえ、厚生労働省に報告している。</p>	